論文

「新台湾之子」を育てる「外籍」の母親に関する心理学的研究

――インタビューを通して――

黄　琬茜[†]

要約：本研究の目的は，「新台湾之子」を育てる「外籍」の母親がもつ困難な点を具体的に明らかにしようとするものである。東南アジアと中国からの「外籍」の母親 12 名に対して，半構造化インタビューが実施された。その結果からは，調査対象者の全員が「中国語」の教科の宿題などの支援で困難をもっていたことが明らかにされた。中国本土から来た「外籍」の母親でさえも，台湾で使用される繁体字と発音記号に違いのために困難を感じていると推察される。また，母親の学歴や職業とは関係なく，子どもの宿題の指導，学習の支援に対して，積極的な態度を持っていると明らかになった。さらに，子どものしつけにも注意が向けられていることが示唆された。

キーワード：台湾，「外籍」の母親，新台湾之子，教育，国際結婚

目次

1. 背景と問題
　1–1. なぜ「外籍」の配偶者と結婚するのか
　1–2. 「外籍」の配偶者の流入背景
　1–3. 「外籍」の配偶者のいる家庭の社会的・経済的地位
　1–4. 「外籍」の配偶者の養育・教育方法への指摘
2. 目的
3. 方法
　3–1. 調査対象者
　3–2. 調査材料
　3–3. 手続き
4. 結果と考察
　4–1. 子どもを教える「外籍」の母親の悩み
　4–2. 子どもに対する勉強支援
　4–3. 子どもに対する養育態度
5. 結論
　5–1. 「外籍」の母親の養育態度の特徴
　5–2. ことばの問題
　5–3. 「外籍」の母親への援助
　5–4. 今後課題

[†]同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程
*2013 年 8 月 5 日受付，査読審査を経て 2014 年 1 月 22 日掲載決定

1. 背景と問題

1–1. なぜ「外籍」の配偶者と結婚するのか

昔から華人社会では「重男軽女」（男尊女卑）という考えが根を下ろしている。台湾では，とりわけそのような特徴が強くみられる。現代でも，男の子が生まれたら，家族全員で大喜びし，女の子が生まれたら，その子どもと母親は重視されなくなり，その結果とに，嫁姑問題に発展する場合も少なくない。そのような保守的な考え方もあり，台湾は，男女の出生率が最もアンバランスな地域の一つである（聯合晩報，2013）。

一方，19 世紀後半から 20 世紀にかけての男女同権の時代および教育の普及などに伴い，21 世紀になると，高学歴や社会での高い地位を持つ女性が珍しくなくなってきた。もちろん，台湾でも，女性の社会進出や高学歴で高い社会的地位の女性が多くなり，横田（2008）によると台湾女性の未婚化，非婚化が進行していることで，女性の労働移民だけではなく，結婚移民が必要とされている。

その結果，社会的地位が相対的に低く，経済的能力が低い台湾男性，あるいは，農村部に住んでいる台湾男性は，台湾女性と結婚することが難しくなっている。さらに，田・王（2006）は，台湾女性の社会的地位向上に伴い，男尊女卑という保守的な考え方をもつ台湾男性は，「外籍」[(1)]の女性配偶者と結婚することになると指摘している。その理由は，「外籍」の女性配偶者の多くは従順で優しいと思われ，そのことによって男性のプライドを保つことができるため，と考えられる。そのため，男尊女卑や後継ぎという保守的な考え方を背負う台湾男性は，海外から結婚相手を求めざるを得ない。このような状況は日本の「農村地域の結婚難（内藤，2004）」という問題，あるいは，「農村花嫁・ムラの国際結婚（武田，2011）」という状況とかなり類似していると考えられる。

1–2.「外籍」の配偶者の流入背景

2000 年から，台湾の国際結婚において，配偶者が妻の場合，中国本土や東南アジアからの「外籍」であるケースが増加している（内政部統計処，2010）。しかし，実際には「外籍」の配偶者と結婚するケースは約 40 年前から始まっていた。顔（2006）によると，1970 年から 1980 年にかけて，仲人を通して，タイやインドネシアの女性が台湾へ連れてこられ結婚したことをきっかけに，台湾の最初の国際結婚が始まったという。しかし，当時，一部の仲介者は仕事を紹介するという名目で，実際は人身売買を行っていたこともあり，「外籍」の女性配偶者の排斥時代と呼ばれている。その後，1980 年から 1990 年までは，「外籍」の女性配偶者と結婚する人は，主に退役の年長者と婚姻の市場で挫折をうけた若者が中心となった。そして 1990 年代に入ると，政府の「南向政策」

によって，多くの台湾の男性は仕事で東南アジアへ行き，滞在地の女性と結婚することが一般的になっていた。2000 年からは，外国籍労働者を導入したり，インドネシアとの貿易関係が増加したことで，台湾の男性は「外籍」の配偶者と結婚するケースが急速に多くなってきた（顔，2006）。2010 年時点では，中国本土（香港，マカオを含む）から来た「外籍」の配偶者の数が最も多く，そして，ベトナム，インドネシアの順となっている（教育部統計処，2011）。

1–3.「外籍」の配偶者のいる家庭の社会的・経済的地位

「外籍」の女性配偶者は中学校まで進学しない場合が比較的多いと呉（2005）は述べている。黄（2006）は，627 名の「新台湾之子」(2)を調査対象者にして，父母の教育程度に関する調査したところ，最終学歴が高校（高職）の対象者が最も多く，それぞれ 37.2% と 35.7% を占めていた。また，父母の職業について，父親の職業は，「第二類職業（スタッフ，屋台，セールスマン，技師など)」が一番多く，40.8% であるが，母親の職業は，「第一類職業（主婦，無職，手伝いさん，単純労働者など)」が一番多く，53.9% であると報告している。また，横田（2008）は，「外籍」のベトナム人女性配偶者は台湾人女性に比べると学歴が低く，夫である台湾人男性も同様であるため，職業的階層も低い傾向があると示している。これらの調査報告によると，「外籍」の配偶者自身であれ，台湾男性であれ，台湾における社会的・経済的地位が比較的に低い傾向にあると考えられる。さらに，蘇（2004）は，多くの「外籍」の配偶者は貧しく兄弟が多い家庭で成長し，家族や生活のため，十分に学校へ行けなかったことから，子どもに放任的な養育態度を持っている人が多いと指摘している。

1–4.「外籍」の配偶者の養育・教育方法への指摘

台湾の「教育部（文部省)」の統計（2011）によると，2004 年から 2010 年にかけて学齢期の「新台湾之子」の数は 4.6 万人から 17.6 万人に増加し，2010 年度の小学校の一年生では 8 名中 1 名が「新台湾之子」という割合であった。「新台湾之子」が入学後，彼らの学習適応や人間関係などのさまざまな問題が生じたことで，「外籍」の母親(3)がいる家庭教育のあり方が問題となった。つまり，多くの研究では，「外籍」の母親は子どもへの養育方法，教育が不十分だと指摘している（呉，2004；蔡，2006；羅，2010）。例えば，「新台湾之子」が勉強で遅れやすい状況が多かったり（呉，2005；葉，2006；陳 2007)，「新台湾之子」の学習適応（学習方法，習慣，態度，学習環境，心身の適応）がいわゆる一般家庭の子どもより低かったり（盧，2008)，社会での不適応行動が多くみられる（蔡，2011)，と指摘されている。

特に「外籍」の母親は普段忙しく，子どもにあまりかかわっていない場合，「新台湾

表 1　台湾の中国語と中国の中国語の相違点

	台湾	中国
発音記号 それぞれの表記	注音符号 ㄅ, ㄆ, ㄇ, ㄈ	ローマ字ピンイン b, p, m, f
使用される漢字 ex：従／関／芸術	繁体字 ex：從／關／藝術	簡体字 ex：从／关／艺术
ことば遣いの違い ex：勉強／すごい／ トイレットペーパー	ex：念書／厲害／衛生紙	ex：学习／很牛／手纸

之子」は学校で友達を作りにくい傾向があると郭（2007）は示している。

このような問題の原因が「外籍」の母親の言語能力にあると指摘されている。

「新台湾之子」を教育する時，中国本土出身の母親は東南アジア出身の母親より，少なくともことば（中国語）の問題がないため，子どもの勉強の指導が大丈夫だという先入観が間違っている。台湾と中国本土は，中国語を国の標準語・公用語として話しているが，実際に，その中国語を使う時，発音記号の表記（水原，2010），読み書きやことば遣いなどが異なる部分が少なくない（表 1）。そのため，中国本土から来た「外籍」の母親にもかかわらず，必ずしも「新台湾之子」に教えられるとは言えない。

「外籍」の母親の中国語の能力が不十分で，低学年の「新台湾之子」の中国語能力や口頭表現に悪い影響を与えたり（王，2003；車，2004），特に子どもが中国語のピンインを勉強する時，母親のアクセントの影響で正しい発音ができない（林，2007），と指摘されている。確かに，「外籍」の母親は学歴や中国語漢字の識字能力が低いので，子どもの勉強を教える際，困難がある（盧，2004）ということで，「新台湾之子」の「国語（中国語）」科目の成績は，一般の台湾人の子どもの成績より明らかに悪いと陳（2007）は報告している。

その一方，上記の指摘とは異なる研究結果もある。それは，「外籍」の母親は子どもに積極的に，かつ丁寧にかかわっているというものである。例えば，子どもの養育を重視していたり（林，2007），結婚年数に比例し養育方法がよくなっていたり（蔡，2006），子どもの学習環境を整えることを重視する（魏，2007）。また，頼（2008）では，3 名高学歴の「外籍」の母親を訪問した結果，子どもの教育を重視していること，子どもが学校で高い評価を受けていたことなどが報告されている。

このように「外籍」の母親の子どもに「教育」に関する研究結果は，相反する二つの側面がある。そこで，本研究では，「外籍」の母親の子どもへの「教育」方法に焦点を当てて検討して分析する。

それゆえに，前述のとおり，現在，台湾の小学校一年生に関していえば，その 8 名中 1 名が「新台湾之子」であり，近い将来，4 名中 1 名の割合にまで増加すると予想され

ている。一方，台湾では少子化が進んでいるため，これらの子ども達は，将来，必ず台湾社会にとって重要な存在になると考えられるので，以上で述べた教育に関する問題に取り組むことが重要であると言えよう。そのため，「外籍」の母親のいる家庭内でのさまざまな教育問題，および「外籍」の母親の子育ての方法などを検討する必要がある。それらの結果をもとに「外籍」の母親に対するさまざまなサポートを考える上で示唆を得ることができるであろう。

2. 目　的

本研究では，「外籍」の母親の子どもへの「教育」方法に焦点を当てて，「外籍」の母親が子どもの家庭内での教育に，どのような悩みを抱えているのか，どのような教育観を持っていると考えられるかについて明らかにする。「外籍」の母親のいる家庭内でのさまざまな教育問題，および「外籍」の母親の教育方法などを検討するため，同じ「外籍」の母親でも中国本土出身の母親と東南アジア出身の母親では言語能力に違いがあるため，大きくこの 2 つのカテゴリに対象者を分けて分析する。そしてそれぞれの「外籍」の母親が子どもを教える時の困難はどのようなことなのか，また，困難が生じた場合，「外籍」の母親自身はどのように問題を解決するのか，さらに，父母の背景（仕事，教育経歴など）が，子どもへの教育に関連するのかどうかについても考察する。

3. 方　法

3–1. 調査対象者

「外籍」の母親 12 名（中国本土からの 4 名，東南アジアからの 8 名），平均年齢 36.6 歳，結婚で台湾に来た平均年数 10 年 8 ヶ月。調査対象者全員には「新台湾之子（小学校 3 年生から 6 年生の子）」がいる（表 2 を参照）。

3–2. 調査材料

陳（2004），盧（2004），洪（2006）などを参考に，「外籍」の母親の養育態度に関する質問項目を事前に用意した。質問項目について，「外籍」の母親の台湾に来た経緯から，家庭教育までの質問を中心に，そのうち，子どもの宿題の指導や子どもの学習およびしつけに関する養育態度の質問項目が多かった。

3–3. 手続き

調査者が「外籍」の母親，一人ひとりに半構造化面接を用いてインタビューを行い，IC

レコーダーで全て録音した。インタビューは，母親自身の許可を得て，台湾の中国語で行われた。調査実施時期は，2011 年 2 月から 3 月まで，インタビュー時間は，約 1 時間であった。原則として，調査対象者の自宅の比較的静かな一室で行われた。

4. 結果と考察

中国本土出身の母親および東南アジア出身の母親のインタビューに分け，文字化データを記述して下記に示す。なお，調査者の発話は Q で示し，調査対象者それぞれの発話は表 2 のコードネームを参照して対応する。

表 2 「外籍」の母親のそれぞれの背景および現状

code	出身地域	言語	それぞれの背景および現状
A	インドネシア	A は，インドネシアの華僑出身で，インドネシア語が母語。客家語と呼ばれる台湾の郷土言語も話せる。中国語の勉強について，インドネシアにいた時，少し話せるから，台湾に来た後，生活環境で中国語を身に付ける。インタビューをした時，中国語があまり上手に話せない。多くの回答には，「是（はい）；不是（いいえ）…」のような短い単語だけで，文を使う回答が少なかった。	A は，11 年前に台湾に遊びに来たきっかけで，夫と出会って結婚した。夫は重工業に勤めているが，A は専業主婦である。現在，4 人家族で，夫と 2 人の子どもがいる。 高校を卒業した A は，台湾に来たばかりの時，熱帯地域出身の A にとって，台湾の冬の寒さに耐えられなかった。
B	中国四川	B は，中国四川の出身で，中国語と四川語（郷土言語）が母語。また，台湾の郷土言語の閩南語（台湾語）を台湾に来てから，家で家族から教わり，今，閩南語が上手に話せる。そこで，インタビューをした時，中国語で話すだけではなく，時々閩南語で使って話した。	B は，15 年前に，夫が中国で働いたきっかけで，夫と出会って結婚した。夫はソフトウェアの技師であるが，B は自分の家で，他人の子の世話をしている保母（資格のない保育士）である。 高校を卒業した B は，台湾に来た後，義理の両親と一緒に 8 年間くらい暮らして，閩南語をその時勉強した。現在，夫と 3 人の子どもと，5 人一緒に住んでいる。
C	中国広西	C は，中国広西の出身で，中国語と広西語（郷土言語）が母語。また，家で夫が台湾の郷土言語の客家語を使っているので，客家語も少し勉強している。インタビューをした時，すべて中国語で回答してもらった。	C は，10 年前に友達の紹介のきっかけで，夫と結婚した。現在，夫は機械の会社で働いているが，C は自分の散髪屋を営んでいるため，朝から夜まで働いている。4 人家族で，夫と 2 人の子どもがいる。 中学校を卒業した C は，結婚する前，中国語が話せるので，夫と夫の家族とのコミュニケーションが問題ないと思ったが，予想に反して，家族の皆郷土言語の客家語で話す。この点に対しても，C は台湾に来たばかりの時，一番困ったことだと言える。
D	インドネシア	D は，インドネシアの華僑出身で，インドネシア語と客家語（郷土言語）が母語。台湾に来た後，生活環境で中国語を身に付ける。インタビューをした時，D は上手な中国語で話せるが，会話の途中，時々客家語も出てきた。	D は，11 年前に夫がインドネシアに遊びに行った時，友達の紹介で D と知り合って結婚した。普段，夫は建設業で重機担当に勤めているが，D は家で内職をしながら，家の前でビンロウの屋台（ビンロウという木の実でできた噛みタバコを売る商売）を経営している。現在，義理の両親と夫と子ども 2 人と一緒に暮らしている。 専門学校を卒業した D は，台湾に来た後，生活環境で中国語を身に付けるが，中国語が書けないことは，ずっと困っている。一方，台湾に来てから，義理の両親と一緒に暮らしているが，D にとって，義理の両親と付き合うことは，今でも，一番困ることである。例えば，D は妊娠している時でも，義理の両親からの世話にならなかった，かえって，家事や料理をちゃんとできないなら，義理の両親に叱れるといった状況であったようである。
E	ベトナム	E は，ベトナム出身で，ベトナム語が母語。中国語は家で身に付ける。インタビューを通して，中国語で日常会話には問題がない。	E は，10 年前に友達の紹介のきっかけで，夫と出会って結婚した。夫は公務員として鉄道局に勤めているが，E は作業員として工場に勤めている。台湾に来てから夫の家族（大家族）と一緒に仲良く暮らしている。2 人の子どもがいて，子どもの世話は時々夫の家族からしてもらうということである。 高校を卒業した E は，中国語が話せないせいで，最初，台湾に来たばかりの時，家族とのコミュニケーショがうまくいかないことが，一番困ることであった。その後，家で中国語を身に付ける。ことばの問題以外，台湾の食生活と天気も慣れなかった。

F	タイ	F は，タイ出身で，タイ語が母語。中国語の勉強について，台湾に来る前に，全然できなかったが，台湾に来た後，一所懸命独学して，その後，本格的に「補校」と呼ばれる校内の「中国語教室（夜に小中学校での空いている教室を利用して，「外籍」の母親に台湾のことばや文化を紹介して教えるコース）」に入って，今も勉強している。したがって，中国語が上手に話せる。インタビューをした時，中国語で上手に答えてもらうだけではなく，中国語を読むこともできるとわかった。	F は，10 年前に夫と昔の職場（台湾）で知り合って，結婚した。夫の職業は大工である。F は中国語の能力が高いので，現在，翻訳者や通訳者として働いている。 F は高校を卒業した。台湾に来たばかりの時，義理の母さんと一緒に暮らしていたが，今は，夫と 2 人の子どもと，4 人一緒に住んでいる。
G	ベトナム	G は，ベトナム出身で，ベトナム語が母語。中国語の勉強について，最初の時，家族の皆の話を聞きながら，そのまま練習して独学した。今，「補校」と呼ばれる校内の「中国語教室」1 年間半くらいに通っている。しかし，中国語を読めないことで困っている。インタビューをした時，いくつの回答がずれているけれど，中国語が普通に話せるとわかった。	G は，10 年前に親戚からの紹介で，夫と出会って結婚した。夫はセキュリティーの仕事をしているが，G は主婦である。台湾に来てから，ずっと夫の家族（大家族）と一緒に暮らしている。 G は中学校を卒業した。G は夫の家族との仲がとてもいいと言った。特に G は妊娠している時，義理の母親からの世話に対して，とても感謝したと報告している。
H	ベトナム	H は，ベトナム出身で，ベトナム語が母語。また，義理の母さんと一緒に住んでいるため，中国語の勉強だけではなく，義理の母さんが使っている客家語も勉強しなければならない。そこで，言語の問題は，台湾に来たばかり時，一番困ったようである。中国語を勉強するため，「補校」と呼ばれる校内の「中国語教室」で一年間くらい勉強したことがある。インタビューをした時，中国語だけではなく，客家語でも少し話してもらった。	H は，10 年前に台湾の親戚を訪ねに来た時，夫と出会って，結婚した。夫の仕事は建設業で重機担当である。H 自身は中国語能力を生かして，翻訳者や通訳者として務めながら，屋台で果物の商売もしている。 H は中学校を卒業した。義理の母さんと一緒に住んでいるから，時々子育てをする時，義理の母さんからの干渉があると言った。例えば，子どもがテレビをばかり見て，宿題を全然しない時，H は子どもを叱ったら，義理の母さんに「なんで私の可愛い孫を叱るの？テレビを見ても，大丈夫だ！」と言われた。
I	ベトナム	I は，ベトナム出身で，ベトナム語が母語。中国語は台湾に来たばかりの時，半年くらい学校で勉強したことがある。一方，昔，義理の母さんと一緒に暮らしていた時のきっかけで，閩南語（台湾語）も少し学べた。 したがって，インタビューをした時，I の中国語の発音はかなりなまりがあり，質問とズレた回答が多かった。でも，途中，時々簡単な閩南語で回答してもらった。	I は，お見合いで夫と結婚した。夫は屋台で肉団子の商売をしている。I は夫の商売を手伝っている。今，3 人家族（夫と子ども 1 人）で一緒に住んでいる。 高校を卒業した I は，台湾に来たばかりの時，一番慣れなかったのは，台湾の食生活であった。
J	中国湖北	J は，中国湖北出身で，中国語と湖北語（郷土言語）が母語。台湾に来てから，夫と義理の両親と一緒に暮らして，義理の両親は閩南語（台湾語）しか話せないので，J は閩南語を聞くのが大丈夫だが，あまり話せない。	J はお見合いで夫と結婚した。夫はタクシーを運転しているが，J は美容師として自分の店を経営している。今，義理の両親と夫と 2 人のこどもと一緒に暮らしている。 高校を卒業した J は，台湾に来たばかりの時，ことばの問題はなかったが，台湾が中国との食生活であれ，人と人の付き合い方法であれ，とても異なるので，困ったとのこと。今，義理の両親と一緒に暮らしているが，生活習慣はまったく違うので，時々，その義理の両親との間で口論になって困っている様子。2 人の子どもがいるが，性格は正反対であると言った。長男は恥ずかしがり屋であるが，次男は活発過ぎるタイプである。
K	ベトナム	K は，ベトナム出身で，ベトナム語が母語。中国語の勉強について，台湾に来る前に 1 年くらいベトナムで家庭教師から中国語を教わった。インタビューをした時，中国語が普通に話せるが，質問とズレた回答も少なくなかった。	K は夫とお見合いで結婚した。夫は銀行で働いているが，K は家で子育てをしたり家事をしたりする。 K は高校を卒業した。昔，夫の家族（義理の父親と伯母）との付き合いことのため，困ったことがある。3 人子どもがいるので，子どもの世話に忙しくて，外で働くことができない。
L	中国四川	L は，中国四川出身で，中国語と四川語が母語。インタビューをした時，警戒心を強く持っているようで，すべての回答は簡潔で短かった。	L は，夫と結婚することについて，“縁がある”と言った。夫は不動産屋で働いているが，L は自分の店を持って，衣類の販売を行っている様子。夫の家族と一緒に住んでいないけれど，皆と仲良くしている。 L は高校を卒業し，家での共通言語が中国語なので，ことばの勉強の悩みがない。ただし，今まで，台湾の繁体語の漢字が読めるけれど，書けない。

4–1. 子どもを教える「外籍」の母親の悩み

「外籍」の母親は子どもを教える際，特に子どもの勉学支援に対して，どのような困難が起きるか，どのような心配をもっているか，インタビューを通じて，明らかにす

る。それぞれの発話を以下に示す。

4–1–(a)．中国本土出身の母親

データ①（台湾式のピンインがわからない中国本土広西出身の母親 C）

Q：子どもの宿題を指導する時，苦手な科目がありますか。

C：実は，ある部分が分からない。昔，私が勉強した内容と違うから。

Q：台湾のピンインと中国本土のアルファベットのピンインとが違うということですか。

C：はい。

Q：ピンイン以外の科目は，大丈夫でしょうか。例えば，数学とか。

C：まあまあ。子どもは学校で宿題をすでに完成したから。

データ②（子どもの教育をすべて中国本土湖北出身の母親 J に任せる）

Q：家で誰が子どもを主導して「教育」しますか。

J：私！

Q：夫も子どもを「教育」することは，あなたに任せますか。

J：基本的に言うと，夫は子どもを教えていない。子どもに教えたことがない。夫は，ただ，時々，子どもを連れて，おもちゃを買うことくらいするだけ。でも，夫は子どもに「何が正しいことで悪いことか」などを教えたことがない。

Q：子どもの勉強を教える時，どんな科目のほうが苦手だと思いますか。

J：国語。「注音（台湾式のピンイン）」がわからないから。

データ③（台湾式の繁体字が書けない中国本土四川出身の母親 L）

Q：台湾の繁体字は，あなたにとって，困りますか。

L：私は読めるが，書けない。（台湾）来る前に，ちょっと勉強したことがある。

Q：台湾の「ㄅㄆㄇㄈ」（台湾式のピンイン）も勉強したことがありますか。

L：はい，子どもと一緒に学んだ。

中国本土出身の母親（C，J）は，台湾式のピンインがわからないので，子どもの国語科目を教える時，困難があるという。この点について盧（2004）の研究報告と一致しているが，母親 L は台湾式のピンインを子どもと一緒に勉強したけれど，台湾の繁体字が書けないことに困ったことがあると発言した。要するに，中国本土出身の「外籍」の母親は，中国語を聞くこと，話すこと，読むことに問題がないので，小学生の子どもに数学や他の科目を教えることができる。しかし，台湾式のピンインが分からなかったり，繁体字を書くことができなかったりするので，子どもに「国語」科目を十分に教えられないことが明らかになった。

4–1–(b)．東南アジア出身の母親

データ④（子どもの教育をインドネシア出身の母親 A に任せる）

Q：家で誰が子どもを主導して「教育」しますか。

A：わたし。私が子どもを育てる。子どもは私が教える。

Q：子どもの宿題を教える時，中国語が読めますか。

A：少しだけ読める。私が，中国語の勉強に行ってなかった。

Q：中国語が分からないことは，あなたが子どもを教える時，困難が生じましたか。

A：はい。そうだ。中国語の場合。中国語が分からないから，子どもが読んでくれると，分かった。

Q：要するに，子どもが母に読んであげて，そして，母が子どもに答えを教えると言うことですか。

A：はい，はい。

データ⑤（国語（中国語）の科目指導に苦手のインドネシア出身の母親 D）

Q：家で誰が子どもを主導して「教育」しますか。

D：私の方が多い。

Q：子どもを教える時，あなたにとって一番難しいことは何ですか。

D：中国語を教える方法かな。私は中国語の方が苦手。

Q：他の科目は，どうですか。

D：自然（科目）はちょっとできない。こちら（台湾）の自然（科目）は，インドネシアと違う。私が，子どもを教えるのは，数学と英語。

データ⑥（国語ができないという悩みがあるベトナム出身の母親 E）

Q：子どもを「教育」する時，あなたにとって一番難しいことは何ですか。

E：一番難しいのは，彼らの勉強がよくわからないこと。

Q：子どもの勉強について，どの部分の方が苦手ですか。

E：国語（中国語）ができない。他はまあまあ大丈夫。

データ⑦（国語の指導が一番難しいベトナム出身の母親 G）

Q：子どもの勉強を教える時，一番難しいことは何ですか。

G：国語だ。他はまあまあ大丈夫だ。数学とか作文とかまあまあ大丈夫。

データ⑧（中国語を正しく発音できないという心配があるベトナム出身の母親 H）

Q：子どもを「教育」する時，あなたにとって一番難しいことは何ですか。

H：勉強の面は一番難しい。例えば，ベトナム人の私は中国語を正しく発音できないので，心配する。子どもに宿題を教えても，教えられないから。

Q：中国語以外は，他の勉強を教えるのがどうですか。

H：数学は私が教える。ベトナムの数学は台湾と同じなので，教える。英語や理科等もわからない。

データ⑨（中国語をうまく話せないという悩みがあるベトナム出身の母親 I）

Q：家で誰が子どもを主導して「教育」しますか。

I：私！ほとんど私が教える。

Q：夫は教えませんか。

I：少ない。たまに夫は子どもに「宿題は終わるかい？」と聞くだけ。子どもは何でもママだけに言う。

Q：子どもを「教育」する時，あなたにとって一番難しいことは何ですか。

I：子どもは小さい時，時々，どうやって教えるのかは，言いづらくて，何と言えばいいか，考える。→（中国語の表現問題）

Q：つまり，中国語の問題ですか。

I：はい。どうやって（中国語で）話したらいいかわからない時，子どもが泣く。

データ⑩（国語（中国語）があまりできないベトナム出身の母親 K）

Q：家で誰が子どもを主導して「教育」しますか。

K：私！

Q：子どもの勉強を教える時，国語，数学，英語などは，あなたにとって，どちらの方が苦手ですか。

K：国語，英語はあまりできない。

一方，東南アジア出身の母親が中国語能力問題で子どもへの勉強の指導が難しいという悩みをほとんど全員が持っていることが明らかになった。すなわち，台湾に来て 10 年ほどたつ東南アジア出身の「外籍」の母親は，日常会話の中国語をある程度聞くことができるが，話すことや読み書きが苦手なので，子どもに宿題を教えようとしても，教えられないという困難がある。これは，盧（2004）の東南アジア籍の「外籍」配偶者を対象にした調査において明らかにされた，「外籍」配偶者は中国語漢字の識字能力が低いため，子どもに教えることが難しいという現状と一致する。上記の内容から見ると，中国本土出身の母親であれ，東南アジア出身の母親であれ，「新台湾之子」に勉強を教える際，何かしらの困難が起きていることがとわかった。特に，子どもに「国語」科目を教えることが難しい。

4–2. 子どもに対する勉強支援

子どもに対する勉強支援において，「宿題の指導」と「学習の支援」という二つの側面に分けられる。子どもの宿題の指導において，親は能動的な役割を演じる。つまり，親は自ら子どもの学習の過程に参与する。他方，子どもの学習の支援において，親は補助的な役割を担う。具体的に言うと，親は，子どもに塾に通わせたり，問題集などを買ってあげたりするというような支援である。

そこで，子どもに勉強を教えることに悩んでいる「外籍」の母親が，子どもの宿題指導における問題に直面した場合，どのように問題を解決するのか，また，どのように子どもへ学習支援を与えるのか考察する。

4–2–(a). 子どもの宿題指導

12 名「外籍」の母親を対象に，子どもが宿題がわからない場合はどうするか質問したところ，12 名中 2 名が「私が教える」，5 名が「私がわからない時，子どもに夫に聞かせる」，3 名が「子どもに学校や「校外の学童保育（安親班）」の先生に聞かせる」，2 名が「子どもに親戚や近所や他の人に聞かせる」と答えた。各調査対象者の発話を以下に示す。

①ただ小学生の宿題だけから，教えることができる

中国本土出身の調査対象者にとって，ことば（中国語）の問題が多くないので，子どもの宿題を教えることができる。しかし，教える範囲は，小学生の勉強に限られている。

表 3 「私が教える」と答えた発話例

「外籍」の母親	具体的な発話例
B	小学校の場合なら，理科，社会科目を除いて，国語，算数なら…。国語の字体は，ちょっと問題がある。ある一部の質問なら，問題がないはず。小学校の範囲以内はほとんど私が教える。
L	子どもを答えに導いてあげる。あるいは，時々，直接子どもに答えをあげて，その後，一を聞いて三を知るように答えてもらう。今は，まだ教えられるが，将来は，わからない。

②中国語能力の問題

中国語能力が低いことや中国語の読み書きがわからないから，子どもの宿題を確認することができない調査対象者が多い。

表 4 「私がわからない時，子どもに夫に聞かせる」と答えた発話例

「外籍」の母親	具体的な発話例
A	私がわかるなら，教える。私がわからないなら，子どもにお父さんに聞かせる。中国語が少しだけ読める。中国語が分からないから，子どもが読んでくれると，分かった。
E	パパ（夫）が教える。一番難しいのは，彼らの勉強がよくわからないこと。国語ができない。他はまあまあ大丈夫。
F	今は，すべてパパ（夫）に任せる。子どもは宿題が分からない場合は，すべて夫が回答する。
G	私がわかったら，教える。わからないなら，夫が帰ったら時，聞く。国語が一番難しい。他はまあまあ大丈夫だ。数学とか作文とかまあまあ大丈夫。
J	時々，私もわからない時は，子どもに夫に聞かせる。もし，私がわかったら，自分で子どもに教える。国語。「注音」（台湾式のピンイン）がわからないから。
K	私は頭を使って，他の方法を変えて教える。どうしても，子どもにわからせるまでに，考える。英語はあまりできない。他は大丈夫。わからない時，子どもにパパに聞かせる。

表 5 「子どもに学校や『安親班』の先生に聞かせる」と答えた発話例

「外籍」の母親	具体的な発話例
C	（笑）もし，私が分からない時，子どもに先生に尋ねさせる。実は，ある部分が分からない。昔，私が勉強した内容と違うから。（子どもの教科書の内容がわからない）
D	長女は，今四年生で，私が彼女に塾に通わせる。放課後 3 時 40 分から，塾に行って，19 時まで。中国語を教える方法が一番難しい。私は中国語の方が苦手。自然（科目）はちょっとできない。こちら（台湾）の自然（科目）は，インドネシアと違う。私が，子どもを教えるのは，数学と英語。
I	「安親班」（校外の学童保育）に頼んで，子どもに教える。

表 6 「子どもに親戚や近所や他の人に聞かせる」と答えた発話例

「外籍」の母親	具体的な発話例
H	近所の人や，近所の高年生の子に聞いて，彼たちの方がわかるから。教えてくれたら，私が子どもに教える。ベトナム人の私は中国語を正しく発音できないので，心配する。子どもに宿題を教えても，教えられないから。数学は私が教える。ベトナムの数学は台湾と同じなので，教える。英語や理科等もわからない。

「外籍」の母親自身が子どもに宿題を教えると答えたB，Lは，中国本土出身者で，東南アジア出身の母親より，ことばの問題が少なく，子どもに勉強を教えることができる。しかし，BとLは，小学生の宿題くらいならまだ対応できるが，これ以上の学齢を教えることができるかどうか心配していることも明らかになった。しかし一方，同じ中国本土出身の「外籍」の母親（C，J）は，中国語はもちろん話せるのだが，台湾式のピンインや台湾式の繁体字（漢字）がわからないので，子どもの勉強や「国語」を教える時に，困難が起きることが示唆される。

それに対して，他の人に頼むと答えた東南アジア出身の8名の（インドネシア2名（A, D），タイ1名（F），ベトナム5名（E, G, H, I, K））「外籍」の母親は，中国語が苦手と意識しているので，特に，子どもの「国語」を教えることが難しいと述べている。そのため，宿題の指導や確認は他の人（夫，先生，近所など）に任せる場合が多い。

要するに，東南アジア出身の「外籍」の母親へのインタビューを通して，彼女らは中国語の勉強で苦労しているため，子どもに教える時，とりわけ「国語」を教えるのが大変難しいということがわかった。他方，中国本土からの「外籍」の母親の場合，子どもに「国語」を教えるのが比較的問題がないと考えられている。しかし，インタビューをした結果，彼女らは繁体字や台湾式のピンインやことば遣いが違うことで，子どもに「国語」を教える時に問題があることがわかった。つまり，中国本土出身の「外籍」の母親でさえも，子どもに「国語」を教える自信がないということが明らかになった。

しかし，12名の「外籍」の母親は，国籍を問わず，台湾の中国語の問題があるにもかかわらず，母親自身が子どもに宿題を教えられない場合でも，中国語ができる他の人に任せることから，子どもの教育に対して無関心ではなく，むしろ積極的にかかわっていると考えられる。

4–2–(b)．子どもの学習支援

12名「外籍」の母親を対象に，家で子どもの学習を支援するために，何かするのか，また，子どもが家での学習環境を整えるかどうか質問したところ，12名全員が「本を買う，あるいは，子どもを図書館へ連れて行く」などと答えた。具体的な発話例を表7のようにまとめる。

12名「外籍」の母親は，子どもの学習能力を高めるため，本を買ったり，図書館などへ連れて，子どもに本を読ませたりしていることから，子どもの教育を重視していると考えられる。また，家で子どもにしっかり勉強させられる場所を整えている母親は，5名だった。学習環境を整えていないと答えた「外籍」の母親は3名であった。その内2名は，そのような環境に満足していないと考えていた。

以上のことから，「外籍」の母親は，子どもの勉強に関して，積極的な態度を持っていると言えよう。

表 7　子どもの学習の支援についての発話例

「外籍」の母親	具体的な発話例
A	はい。参考書と問題集をいつも用意している。
B	うん，私は参考書と問題集を買ってあげる。問題集は各科目ではなく，科目次第。例えば，国語なら，参考書を買って，数学なら，低学年だから，参考書を買ってあげない。参考書ではない場合，問題集を用意する。他の本なら，子どもに図書館へ借りに行かせる。この点について，あまり拘らない。大人は買った本が必ずしも子どもが読みたい本とは限らないと思うから。子どもは本を読みたい気持ちがあれば，十分だと思う。
C	勉強に関わる本。自習用のテキストと問題集など。他の本なら，買わない。学校の図書館で借りられるから。子どもは自分で勉強をする部屋がある。
D	用意する。物語など。また，絵本や問題集。問題集は夫が買った。うちは子どもの勉強の部屋がない。
E	はいはい，する。参考書や問題集などを買う。他の課外読書はわりとあまり買わない。
F	はい，本を買う。
G	はい。叔母が買う。数学の問題集など。子どもは数学が苦手なので，買う。他の物語等も買う。うちの子は自分の部屋を持っている。ベッドの隣に机を置いて，あそこで勉強させるため，設置した。子どもに勉強させる場所は重要だと思う。
H	数学に関わる問題集を買う。娘なら，字を書く練習の筆記を書く。課外読書なども買う。例えば，「三字経」（啓蒙識字教材）とか。子どもの勉強の机がある。
I	息子は中国語の本が好き。子どもに欲しいものがあったら，買う。子どもの勉強のため，いい場所がある。
J	うん，私は子どもを図書館へ連れて行く。図書館で自分が好きな本を読む。机があるけれど，個人の部屋がないから，ちょっとうるさい。それに，時々，お婆さんとお祖父さんは，隣で大きい声で話したり喧嘩したりすることなんか，子どもの勉強によくないと思う。
K	参考書を買う。他の課外読書は買わない。（子どもが）自分の部屋がないから，良くないと思う。
L	「巧連智」（台湾で脳の開発のための本）を買った。また，「国語週刊や国語日報，全国児童楽園」（すべて，台湾の課外読書の名）。はい。子どもは自分用の机や DVD なんかを持っている。

4–3. 子どもに対する養育態度

一方，子どもの勉学としつけ（礼儀作法・マナー）の子育ての方法は，「外籍」の母親が同じの養育態度で教えるかどうか，についても比較し考察する。

子どもに対する養育態度を明らかにするため，「外籍」の母親を対象に，「子どもを「教育」する時，一番大事なことは何か」，「子どもが間違ったことをした時，どうするか」，また，「現在，あなたの子どもの外での行動に対して，どう思か。満足するか。」などを質問したところ，12 名中 8 名の母親は，子どもの礼儀・マナー，あるいは品性が重視していることがわかった。それぞれの発話を下記（表 8）に示す。

この 8 名の「外籍」の母親は，子どもへの学習支援に対して，積極的な態度をもっていることが明らかにされたが，子どもの養育に対しても疎かにしていないと言えよう。特に重視しているのは，子どもの礼儀作法や品性の側面である。一方，他の 4 名の（C, D, I, L）「外籍」の母親は，子どもの勉強や礼儀より他のこと（子どもの人間関係や物心がつくことなど）の方が重要だと思われた。

また，子どもをしつけする時，時々，子どもを叱ったり叩いたりすることは「外籍」の母親の養育態度の特徴のひとつだと考えられる。この結果は，洪（2006）の，東南ア

表 8　養育態度についての発話例

「外籍」の母親	具体的な発話例
A：	一番大事なのは，マナーだ。
B：	子どもを「教育」する時，一番重視をしているのは，品格です。子どもが口ごたえする時，私は子どもに，「私は母として，年長者として，目上の人に失礼なことをしてはいけない」と教えた。本当に悪いことをしたら，叩く。わたしが子どもを叩く。
E：	話しをよく聞くことでしょ。また，品性，勉強なども重要。特にいい子になること。話しを聞くこと。物事がわかること（が重要）。子どもが間違った時，ゆっくりと教える。ゆっくりと話す。話しを聞かない時，時々，叱ったり叩いたりする。（笑）ちょっとだけ…。
F：	彼を「処罰」する。罰として半分にしゃがませることとか，罰として立たせることなど。（子どもの）人柄（品性）が大事だ。子どもは話しを聞かない時や，礼儀作法を守るかどうか…ほとんど日常生活上の礼儀作法に関して…。
G：	私は毎晩子どもに「人は物事を知る道理（做人做事的道理）」言う。第一，欲張りをしないで，誠実しなさい。人と会う時，挨拶をしなさい。学校へ行っても，クラスメートに対する礼儀を守ってください。クラスメートに優しくにしたら，クラスメートも同じようにあなたに優しくにする。将来，社会に進出する時，上司はあなたがいい人柄と考えたら，昇進してあげる。最初の時，私は子どもに「あれはあなたが間違っているよ。直してください。」と言った。実は，一回目の時は，許すが，二回目したら，「処罰」する。罰として立たせる。でも，今，子どももう大人になったため，罰としてテキストの内容を丸写しさせる。昔はあって，掌や足の底を叩いたが，今はしません。
H：	たまに不満がある。子どもによく注意が行き届かないから。時々，子どもに何もしないでと言って，却って，わざとやると，私が怒る。そして，食事も礼儀が必要だ。子どもは小さい頃から厳しく教える必要があるだと思う。それに，礼儀が一番重要だと思う。礼儀がないなら，ダメだから，私はとても厳しい。もし，大きく間違ったら，「処罰」をする。もし，普通だったら，「今度，直してください」と言う。罰としてひざまずかせる。
J：	人間関係。人柄（品性）の面。はい，そうですね。勉強より品性のほうが大事だと思う。人と人の付き合い関係は一番大事だと思う。子どもたちは，悪いことなんかしないと，結構です。つまり，人柄（品性）の点を持たせれば，いいと思う。
K：	礼儀の方が大事です。子どもは時々人を無視して，ちょっとマナーがよくない。子どもが間違ったら，私が怒る。時々叩く。叩いた後，（道理）を言う。

ジアの「外籍」配偶者を対象にした調査研究において，「外籍」の母親は子どもを教育する時，体罰をせず，「低い権威型（子どもを可愛がって，叱ったり叩いたりしない）」という報告，および「民主的なしつけの方式（子どもの感覚を重視して，叱ったり叩いたりしない）」という報告（盧，2008），とは一致していないと言えよう。

5. 結　論

5–1. 「外籍」の母親の子育ての特徴

多くの「外籍」の母親は台湾に来て，生活にまだ慣れていない時に，子どもを産み，さらに子育ての責任を負わなければならない。盧（2004）は，「外籍」の配偶者のいる家庭では，多くの父親は家計のために忙しくて，子どもを養育する仕事をほとんど「外籍」の母親に任せていることを指摘し，また，車（2004）は，父親は家に帰っても家事や育児などを手伝わないことを指摘している。本研究でも，子どもの教育の責任のほとんどが，父親ではなく「外籍」の母親に任せられていることが明らかになった。台湾で

は子育てをほぼ妻に任せることが，一般家庭でもよくあることであるが，「外籍」の母親のいる家庭でさらにその傾向が強いと言えるだろう。

「外籍」の母親の学歴や仕事の有無とは関係なく，東南アジア出身の「外籍」の母親でも，中国本土出身の「外籍」の母親でも，子どもの宿題の指導や学習の支援に対して，積極的な態度であることが明らかになった。この結果は，蘇（2004）が指摘していた低い経済力低学歴の「外籍」の母親の多くは子どもを教育する時に放任的な態度をもつという報告とは一致していなかった。

さらに，子どもへの養育態度の中でも，子どもの礼儀作法，マナーを重視している「外籍」の母親が少なくないと言えよう。子どもの礼儀作法を正しく教えるため，子どもを叱ったり叩いたりする場合が多いとわかった。

5–2. ことばの問題

東南アジア出身の「外籍」の母親および中国本土出身の母親は，中国語の習熟度の低かったり，繁体字の読み書きできなかったりするということばの問題があることで，子どもの「国語」を教える際，困難があると明らかになった。この点は従来の先行研究では十分に明らかにされていない点である。

一方，そのうちに台湾式のピンインや繁体字を学び，子どもに積極的に教えようとする「外籍」の母親もいた。

以上のことから，彼女らの子どもの勉学およびしつけに関する教育に積極的に取り組むという態度から考えると，子どもに適切な教育を与えると考えられるのだろう。

5–3.「外籍」の母親への援助

「外籍」の母親の中国語能力を高めたり，台湾の生活適応を促進するため，政府は「補校」と呼ばれる「中国語教室」を設置したり，民間団体は「識字班（中国語を読めるように訓練するコース）」を設置している。しかし，実際には多くの「外籍」の母親が，日常の家事や子どもの世話，仕事などに忙しくて，これらの制度を利用することが困難である。本研究の調査対象者も同様であった。そのため，「外籍」の母親に中国語を学ぶチャンスを与えるだけではなく，育児や家事などで「中国語教室」などに通う時間がない場合，子どもも任せられる場所や支援を提供する必要があるのではないだろうか。このことは，「外籍」の母親自身だけの問題ではなく，配偶者や家族の理解，サポートが必要なのではないだろうか。

5–4. 今後課題

本研究では，台湾における「外籍」の母親の家庭教育ならびに養育態度について検討

して分析した。インタビューという方法であったため，「外籍」の母親の出身地にかたまりがみられた。今後，多様な背景をもつ「外籍」の母親を対象にし，本研究で取り上げた点以外の問題点についても検討していきたい。

一方，本研究では，「外籍」の配偶者と類似している日本の「農村花嫁」の国際結婚家庭における子どもの教育問題に言及してないが，今後，日本の場合も比較対象とすることにより，外国で家庭を築き生活するということについて，多面的に分析していく。

注

(1) 「外籍」の配偶者とは，本来の国籍は中国本土，マカオ及び東南アジア（ベトナム，インドネシア，フィリピン，カンボディア，マレーシア）などの国の女性が台湾の男性と結婚した後の呼び方である（顔，2006）。なお，本研究では，子どもの教育問題に取り組むため，「「外籍」の配偶者」を「「外籍」の母親」に置き換える。

(2) 「新台湾之子」とは，新移民女性と台湾人と結婚した後，生まれた子どもを指す。その子は，台湾法律上に認められる公民とし，戸籍を登録し，台湾国民教育を受けられ，更に，台湾の公民として権利と義務を享有する。また，新台湾之子の母親は主に東南アジアおよび中国本土を中心にする。他の国での外国籍女性は含まれない。さらに，彼女らは，仕事関係や仲人の紹介を通して台湾の男性と結婚し，台湾で定住する人である（彭，2008）。

(3) 「外籍」の配偶者は，ここでいう「新台湾之子」との関係において議論するときには，「外籍」の母親と呼ばれることになる。

参考文献

Cai, R.（蔡栄貴）・Huang, Y.（黄月純）（2004）「台湾外籍配偶子女教育問題與因應策略」『台湾教育』626号：33–37

Cai, X.（蔡秀莉）（2006）「外籍配偶接受創新程度，生活適應與教養子女態度之研究」國立台東大学教育研究所學校行政修士論文

Cai, Y（蔡育慧）（2011）「國小新住民學童之自我概念，家長參與與學習適應對偏差行為影響之研究」静宜大学管理在職専班修士論文

Che, D.（車達）（2004）「台灣新女性移民子女之心靈世界探索」国立雲林科技大学技職教育研究所修士論文

Chen, M.（陳明利）（2004）「跨国婚姻下－東南亞外籍新娘來台生活適應與教養子女經驗之研究」台北市立師範学院国民教育研究所修士論文

Chen, X.（陳曉琴）（2007）「馬祖地區國民小學外籍配偶子女學習適應與學業成就之研究」銘傳大学修士論文

Guo, S.（郭淑雅）（2007）「新台灣之子的學習適應圖像――一種民族誌研究的探索」国立中正大学修士論文

Huang, L.（黄立婷）（2006）「新住民社經地位，文化資本，教育期望對其子女自我概念與学習適應之關係研究－以台北県国小中高年級為例」国立台北教育大学教育政策與管理研究所修士論文

Huang, S.（黄森泉）・Zhang, W.（張雯燕）（2003）「外籍新娘婚姻適應與子女教養問題之探討」『社会科学教育研究』8号：136–169

Hong, Y.（洪藝真）（2006）「東南亞外籍新娘來台適應歴程，教養方式及子女氣質之個案研究」銘傳大学教育研究所修士論文

Ke, X.（柯瓊芳）・Zhang, H.（張翰璧）（2007）「越南，印尼與台湾社会價值觀的比較分析」『台湾東南亞學刊』4号：91–112

Lin, J.（林峻志）（2007）「新移民子女語文学習背景分析與実務探討」劉春声『新移民子女教育』旭昇図書有限会社　179–192

Lai, J.（賴建戎）（2008）「高學業成就之新住民子女家庭教養方式與學習適應之研究」国立屏東教育大学修士論文

Lu, X.（盧秀芳）（2004）「在台外籍新娘子女家庭環境與学校生活適應之研究」国立政治大学教育学院学校行政修士論文

Lu, Y.（盧雅鈴）（2008）「東南亞新移民女性子女所知覺的母親教養方式與其學習適應關係之研究」国立嘉義大學　教育行政與政策發展研究所修士論文

Luo, M.（羅明道）（2010）「別叫我外籍新娘的小孩」培育文化出版社

Peng, Q.（彭卿雲）（2008）「新台湾之子父母管教方式，自我概念與生活適応之研究」国立新竹教育大学教育心理與諮商学系輔導修士論文

Skutnabb-Kangas. T.（1988）“Multilingualism and the Education of Minority Children”Index to Volume 25：241–266

Su, R.（蘇容瑾）（2004）「外籍配偶對母職之角色察覺與子女教養態度之研究」南台科技大学　技職教育與人力資源發展研究所修士論文

Tian, J.（田晶瑩）（2004）「「是誰在娶越南新娘？」－男性氣魄與跨國婚姻」国立中興大学修士論文

Tian, J.（田晶瑩）・Wang, H.（王宏仁）（2006）「男子氣魄與可「娶」的跨國婚姻－為何台湾男子要與越南女子結婚？－」『台湾東南亞學刊』3 巻 1 号：3–36

Wang, G.（王光宗）（2003）「台南縣東南亞外籍母親在子女入學後母職經驗研究」国立嘉義大学家庭教育研究所修士論文

Wei, X.（魏秀燕）（2007）「新移民子女教育之省思」劉春声『新移民子女教育』旭昇図書有限会社 301–311

Wu, J.（呉錦恵）（2005）「新台湾之子的教育問題與課程調適之研究」国立台南大学教育学研究科課程與教学専攻修士論文

Wu, Q.（呉清山）（2004）『外籍新娘教育問題及其因應策略』師友月刊 3, 6–12

Xia, J.（夏曉鵑）（2005）『不要叫我外籍新娘』左岸文化

Yan, X.（顔秀茹）（2006）「外籍配偶者子女正向調適歴程之探究－個案研究」国立屏東教育大学教育行政研究所修士論文

Yang, A.（楊艾俐）（2003）「新移民潮台湾変貌」『天下雑誌』271 号　天下出版社　95–110

Ye, Y.（葉玉玲）（2006）「新移民女性子女家庭閱讀環境與学業成就，学習態度關係之研究」国立台北教育大学国民教育学系修士論文

伊藤孝惠（2006）「外国人妻の夫婦間コミュニケーションの問題－先行研究の整理から－」『留学生センター紀要』2 号：17–24

井上智義（2002）『異文化との出会い！子どもの発達と心理－国際理解教育の視点から－』ブレーン出版社

井上智義（2004）『福祉の心理学－人間としての幸せの実現－』サイエンス社：11–22

植野弘子（2011）「父系社会を生きる娘－台湾漢民族社会における家庭生活とその変化をめぐって－」『文化人類学』75 巻 4 号：526–549

大重啓・渡辺弥生（2008）「親の養育態度が子どもの友人関係及び学校適応感に及ぼす影響」『教心』第 50 回総会臨床：1–36

柏木恵子（2006）「親子関係の研究」広田照幸（編）『子育て・しつけ』リーディングス日本の教育と社会 3 号：69–83　日本図書センター

久保麻衣子（2002）「親のしつけ・養育態度がこどもの適応能力の個人差に与える影響」和光大学現代人間学部心理教育学科論文

小武内行雄（2011）「しつけを通じた親の「悩み」「成長」と子どもにおけるしつけ認知との関連」『教育心理学研究』59 号：414–426

坂口由紀子・橋本紀子（2009）「親の性役割態度が養育態度および幼児の社会的行動に与える影響」『女子栄養大学紀要』40 号：69–77

竹下修子（2001）「台湾における日本人妻の社会的ネットワーク－国際結婚による移住のためのネットワーク変容の視点から－」『愛知学院大学教養部紀要』49 巻 2 号：87–99

武田里子（2011）『ムラの国際結婚再考－結婚移住女性と農村の社会変容－』さこん出版社

戸田須恵子（2006）「母親の養育態度と幼児の自己制御機能及び社会的行動との関係について」『北海道教育大学釧路校研究紀要』38 号：59–67

内藤考至（2004）『農村の結婚と結婚難－女性の結婚観・農業観の社会学的研究－』九州大学出版社
原田博子（2008）「母親の養育態度に関する研究 1－育てられ方との関連－」『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要』3 号：271–283
姫岡勤（1976）「現代のしつけと親子関係」川島書店
水原寿里（2010）「漢字文化圏における異文化コミュニケーション－カオス理論から見た漢字の移り変わりについて－」『文化女子大学紀要　人文・社会科学研究』18 号：79–100
宮下一博・池原優希（2009）「親の養育態度と児童の生活技能，勤勉性との関連」心理科学　30, 11–19
横田祥子（2008）「グローバル・ハイパガミー？－台湾に嫁いだベトナム人女性の事例から－」『異文化コミュニケーション研究』20 号：79–110
横張梓（2010）「母親の養育行動が娘の予期的養育行動に及ぼす影響について」『北星学園大学大学院論集』1 号：99–112

電子メディアの引用

LianHeWanBaoWang（聯合晩報網）（2013）「國內男女嬰出生比　嚴重失衡」http : //udn.com/NEWS/BREAKINGNEWS/BREAKINGNEWS 9/7978120.shtml（2013. 6. 23）
NeiZhengBuTongJiChu（内政部統計処）（2010）「99 年上半年国人結婚登記之外外籍與大陸港澳人数統計」http : //sowf.moi.gov.tw/stat/week/week9932.doc（2011. 6. 6）
JiaoYuBuTongJiChu（教育部統計処）（2011）「外籍配偶子女就讀国中小人数分布概況統計」http : //www.edu.tw/files/site_content/B0013/son_of_foreign_99.pdf（2011. 6. 6）

A Psychological Study of Foreign Spouses Who Raise Their New Taiwanese Children : Through Interviews

Wan-Chien Huang

This study aims to explore the difficulties of the foreign spouses in Taiwan who raise their children, currently called 'New Taiwanese Children'. Semi-structured interviews were conducted with 12 mothers who came either from Southeast Asian countries or from Mainland China. Topics such as helping their children with homework, home discipline concerning manner and politeness, languages spoken in their families, etc were covered during each interview. The results indicated that all our interviewees encountered difficulties while helping their children with school assignments especially in the subject of the Chinese language regardless of their birthplace. The Chinese language that is used in Taiwan employs traditional Chinese characters and their original pronunciation makers while that of Mainland uses simplified version of Chinese characters as well as Pinyin, Chinese Romanization system. That might hinder mothers from Mainland China in helping their children learn Chinese even if they use essentially the same language. It was also shown that those foreign spouses were willing to offer their every support in any educational resources regardless of the educational history or occupation. Finally, it was also suggested that they paid a lot of attention to their children's behavior that is considered very important in the society of Taiwan.

Key words : Taiwan, Foreign spouses, New Taiwanese Children, Education, International marriage